

東京バッハ合唱団 月報

[第 597 号] 2012 年 3 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101 郵便振替：00190-3-47604
Tel：03-3290-5731 Fax 専用：03-3290-5732
mail: bachchortokyo@aol.com http://www2.tky.3web.ne.jp/~bach/chor/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No.597

March 2012

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

創立 50 周年を祝う一年

バッハのオラトリオと受難曲に浸りながら

大村 恵美子

久しい間、夢みていた創立 50 周年を、今年ついに現実

に迎えることとなります(1962年7月1日創立)。数年前、第5回ヨーロッパ演奏旅行(2009年8月)の直前には、リーマンショックに発した世界大不況の渦に巻き込まれて、この小さな合唱団も存続の危機に立たされましたが、それも団員のみなさんの不屈の団結と創造的な運営によって、みごとに崖っぷちで身をかかわすことができ、半世紀の節目を記念するための、大曲チクルスにとりかかる積極的な機運をつくりあげました。

そして、今、みなさんがその展開を目の前でご覧いただいているように、50周年記念企画「バッハ4大合唱作品[日本語]連続演奏」の第1陣である《口短調ミサ曲》(第106回定期)を、昨年末みごとに完遂し、記念年の本年は7月の創立記念日を盛大に祝いつつ、第2陣(107定期)、第3陣(108定期)の《クリスマス・オラトリオ》と《マタイ受難曲》とに挑んでゆこうとしています。

合唱団の活動は、このように息つく間もなく、つぎのステップに突進している現状ですが、日本はといえば、さらに足元から崩壊の事態にさらされています。音楽にたずさわる人びとも、これまでのように、美しい、楽しいだけで過ごすことができないほど、一瞬一瞬の意味を問うような深刻さを求めるようになってきたのです。

私たちの《口短調ミサ曲》の成功も、3.11のダメージによって魂を揺さぶられた結果なのだと、私は率直に感じます。思えば、人類の歴史にあって、現代のような科学過信の太平楽の世以外のどんな時代にあっても、儘ならぬ日々のなかで、人びとは絶えず魂を揺さぶられながら生きていたに違いありません。大芸術の成立も、その正当な受容も、この恐れおののく精神なくしてはあり得ないはずだったのです。

現実としても、日本は、レッセフェール(成りゆきまかせ)の無責任経営から、住みよい中央に富が集中しつつ、周辺はそれを支えるための裏方におとしめられてきた。それに対する警告が、3.11の大破壊だったと思います。東京電力ならぬ「東京」バッハ合唱団

だったのです。

東京に住む私たちは、半身不随となった日本を、みずからの責任においても、回復させ、正してゆく義務を負います。これまで、ささやかな歩幅で、いつも赤字に追いかけられながら、バッハの音楽を紹介しつづけてきた合唱団ですが、先の《口短調》公演(12月3日)では、わずかではありますが純益をあげることができました。私は、目に見える方針として、これからは毎回、ささやかながらも黒字の残る演奏会運営を心がけ、犠牲を深く背負いこまれた東北に向けて、純益の中から幾ばくかでも献げようと思います。12月3日は、全出演者と多くの団支援者から寄せられたカンパを、年が明けてから、私が仙台におもむいて南相馬の方々にお手渡ししてきました(先月号「月報」参照)。

まだ私も団員もほとんど学生気分だったころに生まれた合唱団だったので、赤字経営は仕方ないという甘えに、50年間も引きずられていたように思います。社会の推移におされて、私たちももっと勇敢に、社会の中にある自覚をもつべきだと、遅ればせながら、ここに披瀝させていただきます。「なでしこジャパン」にあやかっ、東京バッハ合唱団も、50年目にして、雌伏を脱して踊りあがる! そんな気概です。了

BACH-CHOR
TOKYO
50
1962-2012

創立 50 周年を祝う一年 (次ページ以下に各詳報)

- ①公開レクチャー「バッハの受難曲と福音書」
3月3日(土)14:00-15:00、荻窪教会(後、公開練習)
- ②特別演奏会「《マタイ受難曲》、入門の入門。」
5月19日(土)14:00開演、荻窪教会
- ③創立50周年記念懇親会(講演:笠原芳光氏(宗教学者))
7月8日(日)14:00開会、アルカディア市ヶ谷
- ④野尻湖コンサートと合宿(8月2日~5日)
8月4日(土)16:00開演、野尻湖畔・神山教会
- ⑤《マタイ受難曲》短期強化練習
8月11日、18日、25日、9月1日(各土曜日)
- ⑥第107回定期演奏会(記念企画)《クリスマス・オラトリオ》
11月9日(金)19:00開演、杉並公会堂
- ⑦第108回定期演奏会(記念企画)《マタイ受難曲》
2012年3月30日(土)14:00開演、紀尾井ホール

創立 50 周年を祝う一年

① 公開レクチャー「バッハの受難曲と福音書」

3月3日(土) 14:00-15:00

- ・会場 = 日本キリスト教団・荻窪教会(地図参照)
- ・講師 = 荻窪教会牧師、小海 基 氏
- ・入場無料
- ・15:30-17:30 《マタイ受難曲》公開練習(見学自由)

《マタイ受難曲》と《ヨハネ受難曲》は、日本のバッハ愛好家・合唱ファンに、とくに人気の高い作品です。新約聖書の「マタイによる福音書」と「ヨハネによる福音書」のキリスト受難の記事が、それぞれの受難曲の内容ですが、同じ出来事をあつかいながら、2つの福音書は、視点も文体も微妙に異なっています。この違いが、バッハの作曲態度に大きな影響をあたえ、それぞれに個性的な、偉大な2つの受難曲を後世に残すこととなりました。

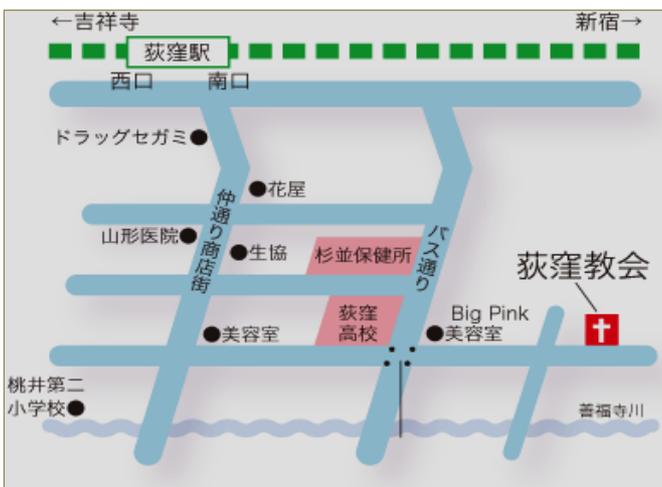
両受難物語の特徴についての解説を、荻窪教会・小海牧師にお願いしました。バッハの受難曲理解への、よい手引きをご提供くださるでしょう。

小海氏は、荻窪教会に牧師として赴任して20年になられ、その間、日本キリスト教団賛美歌委員、農村伝道神学校講師(礼拝学・教会音楽)を務めるほか、「こどもさんびか改訂版」「賛美歌 21」の作曲、編集も行ってこられました。ご存じのとおり、当合唱団のテノール団員でもあります。

《マタイ受難曲》公開練習と参加団員募集

レクチャーののち、東京バッハ合唱団が、下記の「入門」演奏会と、来年3月の「本番」に向けて、日本語による《マタイ受難曲》の練習を行います。参加・見学自由ですので、興味のおありの方はお残りください。

なお、来年の《マタイ受難曲》本番(2013年3月30日、次ページに詳細)には、まだじゅうぶん間に合い



ます。合唱経験のない方でも歓迎します。事務局まで、お問い合わせください。

② 特別演奏会「《マタイ受難曲》入門の入門」

5月19日(土) 14:00 開演、15:30 終了予定

- ・会場 = 荻窪教会(地図参照)
- ・内容 = 合唱と福音書朗読による《マタイ受難曲》。(コラールは客席も一緒に)
- ・出演 = 東京バッハ合唱団、金澤亜希子(オルガン)、大村恵美子(指揮/訳詞)
- ・入場無料

バッハの想定した《マタイ受難曲》の聴衆は、彼の創作の多くの部分を、あらかじめ共有していました。台本の柱は、自分たちのことばで書かれた福音書(ルター訳)の聞きなれた物語であり、音楽の土台は、日常に歌い親しんでいる多くのコラールだったのでから。

このたびの特別演奏会は、《マタイ受難曲》の冒頭と終結におかれた大合唱で枠組みをつくり、内容の福音書部分は、団員がそれぞれの配役に応じて朗読する(新共同訳)という形式で進めます。全15曲のコラールは、場面ごとに歌われますが、合唱団による演奏につづいて、そのつど聴衆全員によっても繰り返していただきましょう。もちろん、日本語の歌詞によります。

例年は、この時期の「荻窪音楽祭」に参加して、地域に開かれた入門的なコンサートを開催してきましたが、今年は音楽祭事務局の都合により、年1回秋の開催のみとなりましたので、当日は、東京バッハ合唱団の単独きかく開催です。

③ 創立 50 周年記念懇親会

7月8日(日) 14:00 開会

- ・会場 = アルカディア市ヶ谷(私学会館)
- ・記念公演 = 笠原芳光氏(宗教思想史、団友)
- ・会費/申込み法等の詳細は、続報をおまちください。

東京バッハ合唱団の創立は、1962年7月1日でした。以後毎年、この日の前後に創立記念の集いをおこなってきましたが、今年はいよいよ、50回目を迎えることとなります。

合唱団の形成にご尽力くださった団友の方々、また長年ご支援をおつづけくださった後援会員の方々をはじめ、多くのお客さまにもお集まりいただき、この半世紀の節目をお祝いさせていただこうと思います。

今回は、記念のスピーチを、主宰者の創立以前からの友人であり、50年間の団の活動をかわることなくお見守りくださった笠原芳光氏にお願いしました。

笠原氏は、1927年大阪生まれ。宗教思想史の視点から活発に著作や論評をされています。京都精華大学名

誉教授、同元学長。『イエス 逆説の生涯』(春秋社)、『日本人のイエス観』(教文館)など著書多数。

以前にご恵贈くださった、聖書学の佐藤研氏との共編著『イエスとはなにか』(春秋社)は、笠原・佐藤の御両人が、荒井献(聖書学から)、吉本隆明(思想から)、岡井隆(文学から)、木下長宏・磯山雅(芸術から)の各氏と、標題のテーマをめぐって、それぞれ個別に語りあった内容ですが、どの分野であっても、怠惰な常識を壊しつつ本質に切りこんでゆかれる、笠原氏の面目躍如という好著でした。ご参集の前に、一読をおすすめします。



吉本隆明氏と語る笠原氏(右)。(京都精華大学創立40周年記念事業DVD「吉本隆明語る『思想を生きる』」の一コマ。2008年12月)
<http://www.kyoto-seika.ac.jp/1968+40/event/takaakiyoshimoto.html>

創立50周年記念企画の第2弾は、《クリスマス・オラトリオ》の前半3部をお届けしますが、じつは、合唱団員にとっては練習すべき歌唱部分の分量と難度においていずれも、明年3月の第3弾《マタイ受難曲》の方が圧倒的です。そこで、練習では《マタイ》を先行してとりあげ、5月19日の荻窪演奏会を当面の目標として、基本部分の習熟を終えておこうという方針で、目下進んでおります。

さて、荻窪演奏会の終了後から、ただちに《クリスマス・オラトリオ》前半とカンタータ第71番の練習が始まります。11月9日の当日まで、6カ月強の練習期間ですが、ここでは、8月の野尻湖コンサートを一つの着地点として、《オラトリオ》前半3部の主要曲を仕上げる予定です。

《マタイ》練習の後期は、第107回定期の終了後、ただちに始まります。本番までの期間は、11月から3月までの4カ月ほど。仕上げの段階です。

④野尻湖コンサート「真夏のクリスマス」

旧団員/元団員の参加歓迎

8月4日(土)16:00開演

- ・会場 = 神山教会(長野県・野尻湖畔、NLA内)
- ・曲目 = 《クリスマス・オラトリオ》前半の抜粋、他
- ・合宿期間 = 8月2日(木)~5日(日)の3泊4日(参加期間自由)
- ・詳細は続報をお待ちください。

創立の翌年に始まる「野尻湖合宿」は、今夏で通算39回を数えます。演奏旅行などの都合により割愛せざるを得なかった年をのぞき、ほぼ毎年、おなじ信州のこの同じ「野尻湖ハウス(野尻レイクサイドホテルと、名称だけ新しくなりましたが)で、続けています。

ところで、今年はとくに、元団員/旧団員の方々の参加を望んでいます。当団の1960年代から80年代にかけては、毎年末の公演が《クリスマス・オラトリオ》でしたので、当時の団員方は、これら第1部から第6部までを、楽譜なしでもお歌いになれるはずです。ぜひ、この合宿からでもご参加いただき、11月の50周年記念公演を賑わせていただければ、幸いです。

まだ腰が立つほどのみなさんは、どうぞご参加ください。

⑤《マタイ受難曲》短期強化練習

遠隔地からの参加にも対応

8月11日から4回の土曜日

- ・時間 = 4回とも13:00 18:00(5時間)
- ・会場 = 荻窪教会
- 8/11 第1部(1~29)
- 8/18 第2部(30~68)

2月	《マタイ受難曲》前期練習
3月	"
4月	"
5月	5/19(土)②荻窪演奏会《マタイ受難曲》抜粋 《オラトリオ》前期練習
6月	"
7月	"
8月	8/4(土)④野尻湖コンサート《オラトリオ》抜粋 8/11, 18, 25, 9/1(土)⑤《マタイ受難曲》強化練習
9月	《オラトリオ》後期練習
10月	"
11月	11/9(金)⑥第107回定期演奏会(杉並) 《マタイ受難曲》後期練習
12月	"

2012年の練習スケジュール

:《マタイ受難曲》練習、 :《オラトリオ》+BWV71練習
 ~ 2013年

3月	3/30(土)⑦第108回定期演奏会(紀尾井)
----	-------------------------

‘記念年’の今年は、年間を通して《マタイ受難曲》と《クリスマス・オラトリオ》に浸る1年となりました。

8/25 小合唱中心

9/1 全体仕上げ

(8月中の月曜練習はすべて休みです)

3月の《マタイ》公演には、ひとりでも多くの方に参加していただけるよう、複数の合流機会を準備しています。首都圏在住でない方も、この機会に何度か参加することで足並みを揃えやすくなるのではないかとおもいます。

⑥ 第 107 回定期演奏会(記念企画)

11月9日(金) 19:00 開演

・会場 = 杉並公会堂大ホール

・曲目 = 《クリスマス・オラトリオ》前半、カンタータ第71番

・出演 = 光野孝子(S)、佐々木まり子(A)、鏡貴之(T)、新見準平(B)、草間美也子(オルガン)、東京カンタータ室内管弦楽団(管弦楽)、東京バッハ合唱団(合唱)、大村恵美子(指揮/訳詞)

・チケット発売予定 = 2012年5月19日

⑦ 第 108 回定期演奏会(記念企画)

2012年3月30日(土) 14:00 開演

・会場 = 紀尾井ホール

・曲目 = 《マタイ受難曲》

・詳細続報

創立50周年の記念の年は、このように、《マタイ受難曲》と《クリスマス・オラトリオ》に明け暮れます。私たちは、ふだん教会カンタータの演奏をメインに活動をつづけていますので、長い歴史のなかでも、このような経験はめったにできません。貴重な機会ですので、たっぷりと浸りながら、味わってみたいものです。

ご存じのとおり、大曲《クリスマス・オラトリオ》の全6部合計64曲の、初めと終結をつつむコラール旋律は、かの、《マタイ》に繰り返し登場する「受難コラール」そのものに他なりません。

飼い葉おけの御子を見守る優しいまなざしの子守唄に始まり、やがて、雄々しく生い立って救い主となった方への信頼をうたう、その同じ旋律が、じつは受難の場面の種々の真実をうたう、あの旋律であったとは!

バッハの音楽の根源に触れる、大事な一年にしたいです。多くのみなさまとご一緒に。

後援会 2011 年度 会計報告 (1月-12月)

2011年1月 - 6月

【継続会員】(敬称略)

鈴木玲子	森永毅彦	北川 信	島崎美和	猪狩恭子
鈴木 靖	藤田玲子	石田朝子	野村明子	瀬底恵子
砂川治子	菊池安子	大切幸一	花井鉄弥	花井友子
勝沼 淳	清田礼子	宮島信子	藤田正記	古野晴子
山本恵子	神田弘子	内田美枝子	大倉正彦	石田美保子
風岡和子	宮城幸義	白井 均	菅間五郎	宮田親平
中澤富士子	市川義和	丹羽 茂	宮崎恭子	斎藤繁儀

【新入会員】(敬称略)

田島 顯

【寄付】(敬称略)

武藤京子	岡田知恵	猪狩恭子	西村清志	五味淵玲子
菅原文子	宮島信子	河野時子	古野晴子	斎藤繁儀

2011年7月 - 12月

【継続会員】(敬称略)

荒井せつ子	高野京子	瀬底恵子	長井しのぶ	務台孝尚
小島陽子	吉村雅典	小沼紘美	橋本みどり	松原 誠
青田 健	島 正孝	箕浦正敏	吉田佐貴子	丸山真人
森泉百合子	福井土志郎	阪根隆司	芝 泰志	川戸龍夫
荻津雅夫	鈴木郁子	加藤道子	高田功二	高橋美千子
谷沢 守	恒松恭子	本郷容子	笠原維信	出口禎子
野村明子	酒井暁子	渡辺さち子	大塚剛宏	武藤京子
堀 甲子	小口幸成	中西 碧	高村明子	田中玲子
原田知子	小久保基子	布施靖子	山本裕子	

【新入会員】(敬称略)

重近 徹 大村和徳 松崎清子 中村美子

【寄付】(敬称略)

菅原文子	森 玲子	百瀬禮子	中村美子	中澤富士子
古野晴子	小栗静子	田中玲子	武藤京子	中西 碧
山本栄子				